

【ナレーション】



いえいえ、札幌市博物館活動センター学芸員の山崎です！

草をかき分け強引に池の中へ

こんな長い棒を持っているから、結構な頻度で釣り人と間違えられますが

水草採集です！

入口のところではミクリとフトイの群生

【ナレーション】



そして水中から花茎を立てているのはホサギノフサモ

最後に出てきた黄色い花は食虫植物のタヌキモの仲間です。

ミクリは漢字で

実栗とも書きます。

果実が集まってボール状になるんですがその形がクリのイガイガに似ているからです。

ミクリ？ クリ？ ミクリ？ どっちだろ・・・

余談ですが数年前に流行ったドラマのヒロインの名前だったのでぜひ、知っておくべき水草ですね。

ミクリは道内では普通に見られますが、日本全体で見ると絶滅危惧種になっている地域もあります。ミクリの分類は難しく花や実が無いと同定ができないこともあって厄介なんです。

【ナレーション】



それぞれの種について説明しますと、まだまだしゃべり足りないんですけど・・・

え？もういい？
・・・はい

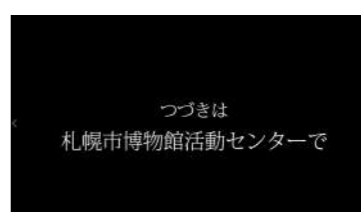
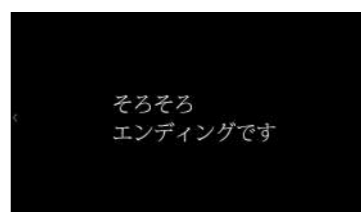
こうして採集された植物は博物館活動センターに持ち帰って標本にする作業が待っています。

自由研究で草花の押し花を作ったことがあるかもしれませんが植物標本の作り方は同じですが陸の植物に比べて、水草は手間と時間がかかる。出張先では必然的に長い夜になりますから、そうした作業をしやすい宿を選ぶのも重要なポイントです。たとえば、水草を洗っていても笑顔で許してくれる民宿とか・・・あ、標本づくりでしたね。

出来上がった標本は殺虫のためマイナス 20 度から 30 度のディープフリーザーに 2 週間ほど入れておきます。すぐには標本庫には入れないので標本庫に有害な生き物が入らないように、出来る限りのことをします。めんどくさがったらダメです。

植物や昆虫などの生き物の名前を正確に見定めていく「同定」には専門的な図鑑をいくつも見ながら検討していきます。

【ナレーション】



これまでに収集して蓄積した標本庫の資料は、こうした同定の時「実物の図鑑」として機能します。

収集は展示のためだけではなく自然についてより正確に調査・研究するための資料として必要なのです。

しかも植物の場合は地域差もあるので、市内・道内の様々な地域で採集されたものを集めておくことでコレクションの価値が高まります。図鑑としても、展示としても。

標本を活用して目の前の展示ができています。つまり、学芸員の日々の活動が展示にも繋がっているんです。

ボートを浮かべたり山に登ったり楽しそうに見えるかもしれませんが

実際、野外調査は楽しいんです！